

39. 頭蓋底骨折を伴った顔面多重骨折の1治験例 —当科で加療した中顔面骨折の臨床統計—

栗林良英, 鈴木綾乃, 花澤康雄
(川鉄千葉)

【症例】53歳, 男性。殴打にて咬合不全を自覚し初診。
(平成14年4月4日) 臨床診断: 両側Le Fort I + II型,
左側Le Fort III型, 前頭洞前壁および頭蓋底前壁骨折。
処置&経過: 前頭蓋底骨折は経過観察で, 顔面骨骨折に
対してミニプレートを用いた観血的整復固定術を施行。
現在まで顔貌形態や咬合機能は満足できる状態を維持
し続けている。さらに当科に入院した中顔面骨折患者
13例の臨床統計(過去9年)を行った。

40. 顔面中1/3骨折における骨折線の検討

土肥 豊, 佐々木忠昭, 渋谷富喜子
富塚清二, 今井 裕 (獨協医大)

今回われわれは, 顔面中1/3骨折症例についてLe
Fort分類・Knight & North分類における分類可能例・
不可能例について検討したので報告した。対象は1995
年から2003年4月までに当科を受診した48例で, X-
Pを中心に骨折線を検討した。今回の検討において, 従
来の顔面中1/3骨折における分類法では分類不可能症
例が多く, その改善のための追加分類(案)を提案した。

41. 右側舌縁部に生じた神経鞘腫の1例

田中洋一, 西村 敏, 大野敦香
原田大輔, 工藤逸郎, 田中 博
(日大・歯・口外1)
飲久保真貴 (春日部市立)

今回我々は, 右側舌縁部に生じた神経鞘腫の1例を
経験したので報告した。患者は26歳男性。6年前より右
側舌縁部に腫瘤を自覚したが放置。初診の約一週間前
より同部の接触痛を主訴に来院。同部に13×8mm大・広
基性・弾性軟の腫瘤を認め, 表面は一部帯黄色を呈し
圧痛を認めた。線維腫の臨床診断の下, 局所麻酔下で
腫瘍切除術を施行。病理組織学的診断: 神経鞘腫 (An-
toni A型)。

42. 上顎に生じたDesmoplastic ameloblastomaの1 例

新野辰彦, 石井輝彦, 三宅正彦
中西宏志, 儀本壮太郎, 田中 博
(日大・歯・口外1)
武田秋生 (春日部市立)

今回我々はDesmoplastic Ameloblastomaの1例を経
験したので報告した。症例: 30歳女性。右側上顎前歯・
小臼歯部の無痛性腫脹を主訴に来院。右上2-5相当部
唇頰側に, 鳩卵大・半球上・骨様硬の膨隆を触知。X
線で右上2-5の歯槽部から上顎洞底部にかけて点状な
いし梁状の不透過像が混在する境界不明瞭な透過像を
認めた。上顎骨部分切除による腫瘍切除術を行い術後
約1年を経過した現在, 再発はない。

43. 粘膜病変の治療経過中に発見された脳腫瘍の1 例

宇那木利英子, 秀真理子, 小野正道
松本光彦 (日大・歯・口外2)
前田浩治, 菅原武仁
(東十条・脳外科)

59歳女性。舌のヒリヒリ感・白色病変を主訴に当科
来院。舌痛症および扁平苔癬の診断で治療経過中,
三叉神経痛様疼痛・偏頭痛を訴え, 脳神経疾患との関連
を疑い脳神経外科対診し, 左小脳橋角部に腫瘍が認め
られた。聴神経腫瘍摘出時の所見および術後に舌の違和
感・三叉神経痛様疼痛・偏頭痛が軽減したことから
腫瘍による三叉神経基部の圧迫と考えられた。原因の
特定できない症例では関連領域の精査が重要であると
考えられた。

44. LPS刺激によるヒト歯根膜細胞の遺伝子発現

笠松厚志, 鶴澤一弘, 丹沢秀樹
(千大院)
加藤真樹, 関 直彦
(同・機能ゲノム学)

歯周疾患では, グラム陰性嫌気性菌の細胞壁成分で
あるリポ多糖(LPS: lipopolysaccharide)が発症・進
行において重要であると考えられている。本研究では
LPSをヒト歯根膜細胞に作用させ, ホスト細胞におけ
る遺伝子発現プロファイルを当科にて作製した口腔疾
患診断用cDNAマイクロアレイを用いて検討した。そ
の結果, HOR022F05のmRNAおよびタンパク質がin
vitro及びin vivoにて発現されていることが確認され
た。これらのことよりHOR022F05は歯周組織において
の炎症に関与していることが示唆された。